

「しいたけ原木」生産向上研修会の開催について

1 はじめに

盛岡管内では、年間約36万本(令和元年実績)を植菌していますが、東日本大震災による原発事故の放射性物質の影響を受け、原木価格の高騰が続き、調達困難となっている「しいたけ原木」の安定確保が大きな課題となっています。

そこで、課題解決を図るため、「しいたけ原木」伐採者と原木しいたけ生産者を対象とした「しいたけ原木」生産向上研修会を令和2年11月6日(金)に開催しました。

2 研修会の内容

研修会には、原木コネクター※4名、「しいたけ原木」伐採者2名、盛岡地方しいたけ生産振興協議会11名、岩手県林業技術センター1名、振興局2名の計20名が参加しました。

研修場所は、原木コネクターの荻宿誠人氏(岩手町)が今年度伐採する現場2か所とし、それぞれの現場において、テーマを設定し、参加者による検討を行いました。

※盛岡広域振興局林務部が県内の森林所有者と

原木しいたけ生産者の両方に繋がりを持つ原木生産者のうち、原木の生産及び管内への供給に意欲的な者であると認定した者

(1) 現地研修①(葛巻町葛巻地内)

「しいたけ原木」として販売可能な樹皮規格と選木方法の検討を研修テーマとし、原木しいたけ生産者から敬遠されているミズナラ特有の鱗片状の外樹皮の規格範囲について、参加者による検討を行いました。

(2) 現地研修②(岩手町土川地内)

林業機械を使用して「しいたけ原木」生産を行う際に生じる押し傷・擦過傷等の許容範囲の



現地研修①実施状況

検討を研修テーマとし、現地で生産した原木の傷を見ながら、「しいたけ原木」として使用できるか検討を行いました。検討に先立ち、岩手県林業技術センター皆川専門研究員から現在、研究している内容を紹介していただきました。



現地研修②実施状況

3 今後の対応

参加した生産者からは、「ミズナラでも鱗片状の樹皮でなければ、使えるのではないか。」「少しぐらいの傷であれば、ロウで傷をふさげば使えるのではないか。」など、原木伐採者からは、「今回の検討をきっかけに農協等の規格を見直すと、原木供給が楽になるので検討してほしい。」との意見がありました。

今後も、今回の研修会で出た意見をもとに、引き続き、供給側(原木伐採者)と需要側(しいたけ生産者)に寄り添い、2つのテーマについて検討を行っていきます。